

国際

こだいら



2007年
No.53

Kodaira International Friendship Association News



西町まつり 11月3日(土)

インドネシア よもやま話



10月13日(土)
午後2時から3時半まで、南里エバ・アグネスさんが話して下さいました。インドネシアは1万7千の島があって、そのうち6千の島は無人島で、人口は2億人余り、言語は583種で、3百の

民族があります。宗教はイスラム教徒が多数を占めますが、世界最大の仏教遺跡があります。エバ・アグネスさん着用のバティックが披露されました。バティックや影絵は民族の文化です。そのあとインドネシアの民族楽器の

「アングルン」を紹介しました。「アングルン」は竹で作られた音階ごとの楽器です。出席者に使いかたを教えて、たくさんの方が楽しく演奏しました。



てん刻入門

みなさんが集中して黙々と印づくりに励む中、『ジャンジャジャーン!どれどれ?…』とパイプ椅子をお供に、朱海慶さんが受講生一人一人の席にあらわれて、様々な作品の出来栄を見て、とても丁寧に指導していました。

中国が起源で、象形文字から進化したてん文を用いて石に印を彫る、文字・石・朱泥の種類が豊富で、奥の深いてん刻。印のイメージ作りが一番大切なのだそう。半紙に下書きをして、白文(凹印)か朱文(凸印)にするかを決め、それを石に反対に写す。それが無事終わったら彫りの作業。(もしも失敗してしまっても、ヤスリで削って何度もやり直しができる…根気と集中力と前向きさのいる作業。)彫りが終わったら仕上げの作業へ、朱さんが一人一人に“くずしの技”を伝承して、味のある印が出来あがっていました。

名前を彫る人、来年の干支を彫る人、絵と文字を合わせた遊印を彫る人や、大きさも型も様々の作品(3~4個)を作っていました。みなさんのすばらしい作品を拝見さ

せていただき、印づくりが初めての方がほとんど聞いて、さらに驚きました。

『はじめは、おっかなびっくりだったけれど…楽しいわ!』『時間が足りない!』『大変だったけど、楽しい。』と嬉しそうに話していました。

出来上がった、みなさんの作品を展示する事を聞いて、とっても楽しみです。





中国茶入門

「中国茶」と聞いて、皆さんが思い浮かべるのはどんなお茶ですか？ウーロン茶？ジャスミン茶？それともプーアル茶でしょうか？

最近日本では、緑茶や紅茶だけでなく様々な種類の中国茶が、パック入りやペットボトル等になって出回っています。けれど、本物の中国茶とは、実際にどのようなものなのでしょうか。疑問と期待を胸に、9月29日（土）から隔週全5回の予定で開かれている「中国茶入門」の、第3回目に伺いました。講師は、この講座でおなじみになった、台湾ご出身の木村秋美先生です。

一番初めに紹介されたのは、翠玉茶（ツェーイー茶）という軽発酵のお茶で、この茶葉の入れ方のポイントや、前回までの内容の大事な点を確認されつつ、まず先生がお手本に入れてくださいました。「聞香杯（もんこうはい）」という細長の、香りを楽しむため専用の杯を受け取り、鼻に近づけてみると、ふわっとほんのり甘い、花のようなさわやかな香りがし、思わず目を見張ってしまいました。先生は、「一煎目は香りを楽しんでください。」とにっこりされました。次にお茶を口に含んでみると、香りのもつ甘いイメージに比べて、きりっとしているな、という印象を受けました。味については、2煎目・3煎目がベストなのだそうです。

2種類目のお茶には前回のおさらいとして「高山ウーロ

ン茶」を、そして3種類目に、台湾で数年前から大ブームになっているというフレーバードティーを頂きました。これはウーロン茶に果汁や花で香り付けをしたもので、今回の組み合わせは、ウーロン茶+金盞花（ジンチャンファ=キンセンカ/マリーゴールド）+百香果（パイシャンコウ=パッションフルーツ）でした。“百の香り”と呼ばれるだけあって、一気に教室中がパッションフルーツの甘い香りに包まれていました。

中国茶では、茶葉の種類によって味が違うのはもちろんのこと、湯温・茶葉の量・時間・水質のほか、湯を注ぐ高さやスピード、また、入れる人の性格や季節などによっても、味や香りが変わってくるのだとか。それぞれのグループからは、楽しそうに感想を述べ合う声や、笑い声が聞こえてきました。

この日の天気は、秋の台風通過中という、あいにくのものであったのですが、教室の中はと言うと、中国茶の芳香が一杯に漂って、和やかさとともに参加者の皆さんの、“もっと学びたい、深めたい”という熱気に満ちた、別空間になっていました。



インタビュー トルコ



トルコから来日し、現在、一橋大学修士課程で経済学を専攻されている、デリア・ギュルハンさん

にお話を伺いました。ここ数年、日本ではトルコの人気は高まる一方です。今回のインタビューでは、意外に知られていない、トルコと日本の共通点や相違点も含めて、日本人以上に流暢できれいな敬語で、丁寧に説明してくださいました。

Q どこに住んでいるのですか？

A 国立です。国立の桜並木が気に入っています。

Q 日本の印象は？

A 日本人はとても親切だと思います。道を尋ねると、皆、立ち止まって教えてくれます。

Q 日本に滞在していて感じることは？

A 便利だという点です。交通網や英語表示が整っていて、どこに行くにも楽です。コンビニエンスストアも沢山ありますよね。いろんな国のレストランがあるので、世界中のお料理を食べることが出来ます。不思議なのは、満員電車をよく我慢できるなという点です。トルコ人だったら、きっと喧嘩を起すでしょう。

Q 趣味は何ですか？

A 旅行です。もし日本で両親を案内するとしたら、京都へ連れて行ってあげたいです。エーゲ海を見て育ったので、時々海へ行きたくなりますが、東京から海は遠いので、そんな時は、井の頭公園に行っています。

Q 日本の料理で好きな食べものや嫌いな食べものは何ですか？

A すき焼きが大好きです。納豆とイカの刺身が苦手です。

Q トルコの国花は何ですか？

A チューリップです。オランダの花としても有名なのですが、原産はトルコです。

Q 経済学を勉強するのに選んだ国が日本だったのはなぜですか？

A もともと日本の経済体系が、トルコと共通しているの、日本で学べば、それをトルコにも応用できると考えたからです。

Q トルコはヨーロッパとアジアの中間にあり、ちょうど二つの文化が交わる、本当に興味深い国です。例えば、男性と女性の役割はどうですか？

A 男性社会です。これはアジア的だと思います。ヨーロッパというレディーファーストはあてはまりません。女性は家で家庭を守るという風習が強く残っています。

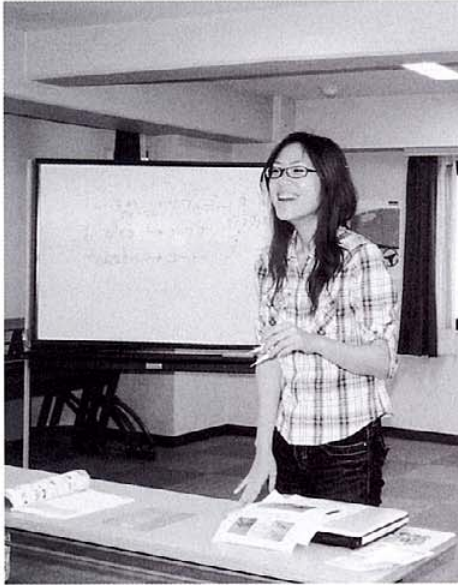
Q 最後に日本の人々へ、メッセージをお願いします。

A 是非トルコへ来てください！4月のイスタンブールはおすすめ。1週間くらい滞在するとゆっくり楽しめます。

どんな質問をしても、自分なりの考えを、日本語で返して下さるギュルハンさん。トルコの将来を担う、芯のしっかりした、花のような笑顔が素敵な女性です。今後の活躍がとても楽しみです。ありがとうございました。

国際こどもクラブ

タイ



10月20日(土) タイからの留学生ペイ(ジュンサシサワン・ジャンヤン)さんによる異文化理解講座が行われました。参加した小学生は、4年から6年で、男の子3名と女の子10名でした。女の子が多いせい

いか、ペイ先生の日本語が上手なせい、教室は、とても明るい感じがしました。前半は、先生自作のスライドで、アジアの地図を見せ、

「タイはどこかな?」とクイズ方式でスタート。タイには国王がいる事や子供達に興味のある通貨(パーツ)や民族衣裳などスライドで見せた後、実物も見せてくれました。特に、アクセサリに女の子達は目を輝かせていました。最後のスライドは「ソクラーン祭り」の様子で昔の正月だそうです。これは、普段の無礼を謝る意味で、両親や祖父母など、水をかけていいそうです。人々が町で水をかけまくっているスライドを見て、子供達は、異文化をどう思ったでしょうか?

さて、後半は、「サン」(日本で言う折り紙)という遊びをしました。2本の細長い紙を編むように折って魚を作るのです。とても難しそうでしたが、長い所をハサミでカットして完成。なんとか魚に見えたかな?

その後、子供達は「タイ」について質問をしたあと、女の子は「サワディーカ」男の子は「サワディークラブ」(さようなら)と言って終わりました。あっという間の楽しいタイ旅行でした。

国際こどもクラブ

ハロウィンパーティー

10月27日(土) ハロウィンパーティーが行われると聞き、またまた、国際こどもクラブにお邪魔しました。この日の天候は台風で、子供達も少ないかと入室してみると、多勢の子供達が、ワイワイガヤガヤとこうもりのモビールを作っていました。仮装している子もいます。部屋の中は暖かく、オレンジのきれいなカボチャやウィッチ、ゴーストの飾り、そして何より目についたのは直径30cm近い「ジャック・オ・ランタン=カボチャちょうちん」(カボチャに目、鼻、口をくりぬいたもの)でした。それが5つも!

工作の後は「トリックorトリート!」(=おかしをくれないといたずらしちゃうぞ!)と言って楽しみにして



いたお菓子をもらい、ビデオを見ながらティータイム。それから、2チームに別れ、ダーツゲームをしました。これは風船を割り、得点を競い合うゲームです。最後は接戦で盛り上がり終わった所で、大きなカボチャちょうちんの中をろうそくを点火し、その前で集合。「ハイ、チーズ!」

本当に盛り沢山のパーティーはあっという間にすぎ、おみやげをもらってさよならしました。5つのカボチャちょうちんは希望者が持ち帰りましたが、スタッフの「3日で腐ります!」の声に、やめた子もいました。

ハロウィンは秋の収穫を祝い、悪い霊を追い出す祭りと言われてます。少しずつ、日本でも定着してきているようですね。

編集後記

寒暖の差のはげしい季節になりました。前号の第52号から編集に携わせていただき、先輩方に助けていただきながら毎号の記事づくりに奮闘してます。みなさんの心づかいに感謝・感謝です!! 日々勉強! 四苦八苦でこれからも頑張ります!!

皆様、素敵なクリスマス&年末をお過ごし下さい。(M)

発行日 平成19年12月1日

発行 小平市国際交流協会 編集 機関紙グループ

小平市学園西町2-12-22 学園西町地域センター3階
〒187-0045 ☎042-342-4488/FAX.042-347-3003

小平市国際交流協会のインターネットもご利用ください

E-mail : info@kifa-tokyo.jp Homepage : http://www.kifa-tokyo.jp/